

東北地方太平洋沖地震

2011/3/18

JR貨物労組対策本部情報 第9号

15時現在

九死に一生を得た、92列車運転士！

3月11日の東北地方太平洋沖地震で、当日、常磐線 浜吉田～山下間を走行し津波にあった、
仙台総合鉄道部 大友運転士に当時の状況を証言していただきました。



大友運転士の証言

3月11日14時46分、常磐線、浜吉田～山下間で防護無線を受信し停車したところ、突然に大きなゆれが襲ってきた。地震と感じ輸送指令に携帯電話で連絡したが通じなかった。その時左横の海側より大きなうねりの津波が襲ってきた。機関車も大きく揺れ、必死につかまり、何とか津波をやり過ごしたが、目の前で民家や車が流されていくのを見て、この世のもの信じられなかった。そして助手席から後方をみると貨車とコンテナが30m以上も先に見え恐ろしくなった。これは大変なことになったと思ったが、荷物を守らなければとの思いもあり、不安ながら機関車でじーと待つしか手は無かった。しかしその後何回も大きなゆれが起こり、また近くの防災警報で更に大きい10m級の波がくるとの放送を聞き、危ないと思い脱出しなければと決意した。少し海水が引いたところを見計らい、首まで冷たい冬の泥だらけの海水につかり、何とか民家にたどり着いた。民家も1階のガラスが破れ、家具が散乱し、泥水が入り込んでいた。そして今後どうなるのか不安がいっぱいの中、寒さに耐え2階で津波の動静を見守っていた。

そして夜の11時頃携帯電話が鳴り、出ると何と当直からかかっているではないか。何とか脱出したことを伝えると少し安堵したが、緊張と不安と寒さで一睡もせず、朝を待つことになった。だんだん夜があげてくると、だいぶ海水が引けているのが見えたので、その民家を脱出し、人がいるところへ行って伝えた。その時、まさに生死の境目を繰りぬけたことを実感した。

この証言については、後日「自然と人間」誌に掲載が決まりました。

全組合員の総力で被災地の復興に全力を挙げよう！